國會舌戰必勝

千頭清臣譯述

全

和装本
ワ 9
233

英國 ダブリュージーハミルトン氏著
日本 文學士千頭清臣譯述

國會戰爭勝全

版權所有

澤屋藏板

四
233

為於于天皇陛下福祉
奉祝天長節之為
第十九年三月
杉浦重剛撰

國會舌戰必勝

英國　ダブリュージートバミルトン氏著
日本　千頭清臣　譯述

第一

演說ノ法ハ先ツ論題ノ性質要點及ヒ動モスレハ敵ヨリ駁擊ヲ受クベキ點ト强ク論明スヘキ箇所、如何ナル反對ニ向テ攻擊セバ最モ利益ナルヤ如何ナル調子ヲ以テ演述セハ可ナルベキヤ如何ニセバ聽衆ノ心ヲ感動セシムルヲ得ベキヤ等ヲ知ルヿ肝要ナリトス而シテ議論ノ姓質、論點ノ存在、敵論ト自論ト

ニ關スル强弱ノ點等ヲ明知スル者ハ舌戰場ノ老將軍ト謂フベキナリ

第二

論議ノ性質ニ隨ツテ演述ノ風ニ種々ノ相異アリ

第三

演說ノ前ニ於テ如何ナル口調ヲ以テ說述スベキヤヲ思考セヨ悠然トノ激ナラン乎溫然トノ和ナラン乎將タ諤々然トノ恐嚇ノ風ヲナサン乎將タ嘻々然トノ嘲哢ノ狀ヲセン乎將タ諧々然トノ以テ逃遁ノ風ヲ爲サン乎寧ロ此等ノ諸風ヲ混合シテ陳セン乎撰ブ所ナカルベカラズ

第四

完全ナル議論ハ過去、現在、未來等ノ事情ヲ含蓄セザルベカラズ

第五

能辨ノ基礎ハ適切ノ思想、明亮ノ音聲、綺語及ヒ議論ノ能ク聽衆ノ感情ニ適合スル等是ナリ而シテ其議論ヲシテ聽衆ノ感情ニ適合セシムルヿハ時、場所、聽衆ノ性質等ニ基クモノナリ

第六

凡ソ問題錯雜ナルトキハ各種ノ主義ト各種ノ方法トニ基キテ之ヲ考査セヨ一主義一方法ノミニ偏倚

シテ考究スル片ハ覺知スル能ハザルノ眞理モ他ノ主義方法ヲ參用スレバ忽チ覺知シ得ルノ益アルベシ

第七

前ニ論述スルモノハ以テ後ニ論述スルモノ、冒頭トセヨ而シテ常ニ其最終ノ論述ヲ以テ其冒頭ヲ堅固ニ且ツ明瞭ナラシムルモノト爲スヲ期セヨ

第八

某論題ヲ議セントスルニ當リ先ツ世上一般ノ輿論ヲ探究セヨ蓋シ世上ノ輿論ト議場ニ於ケル議論ト相異ナル丁甚稀ナリトス故ニ世上ノ輿論ニシテ自己ノ議論ヲ幇助スルノ説ハ取テ以テ材料トナシ其不利ナル説ハ深クヽ之ヲ思考シテ豫メ其答辨ヲ作爲シ置ク丁甚タ必要ナリトス

第九

辨論ノ目的ニ三種アリ曰ク教訓スル丁曰ク聽衆ノ心ヲ感動セシムル丁曰ク人心ヲ喜悦セシムル丁是ナリ就中聽衆ノ感情ヲ動カスヲ以テ第一トス

第十

人ニ感動ヲ起コサシメント欲セバ憤怒、恐懼、慾望、憎惡等ニ訴フベシ

第十一

議論ノ發端ハ勉メテ聽衆ノ心情ヲ和合シ得ベキ事ヲ含蓄セシムベシ

第十二

聽衆ニ對シ常ニ謙遜ノ摸樣ヲ示セ

第十三

平常讀書ノ際ニ當リ獨リ其著書ノ意義ヲ解スルノミヲ以テ足レリトセズ勉メテ其原論ノ正不正ヲモ吟味シテ之ニ批評ヲ下シ以テ他人ノ論說ヲ批評スルノ習慣ヲ養成セヨ

第十四

雄辯說ニ注意ヲ要スルモノ五項アリ

(一)陳述セント欲スル議論ヲ思想スル丁

(二)議論ノ順序ヲ正フスル丁

(三)華麗ノ言語ヲ以テ議論ヲ粧飾スル丁

(四)議論ヲ暗誦スル丁

(五)威嚴恭敬綽々トノ餘裕アルノ態ヲ以テ議論ヲ演述スル丁

第十五

臨機應變ノ活用ヲ爲サンカ爲メニ豫メ自論ノ要點ヲ摘記シ置クベシ

第十六

凡ソ論題ニハ數端ノ觀察ヲナスヲ得ベシ而メ其數

端中彼端ヨリ論及スルト此端ヨリ説到スルトニ由リ聽衆ヲシテ論旨ヲ了解セシムルニ難易ノ差アリ故ニ其諸端中最モ聽衆ノ了解シ易キ端ヨリ論入セヨ

第十七

一議論ヲ發スル前ニ能ク要點ノ所在ヲ考察セヨ然リ而メ討論中其要點ヲ心外ニ放棄スル勿レ

第十八

時トシテ凡百ノ事情ヲ歴舉シ以テ自説ヲ擴張シ時トシテハ獨リ其論旨ニ關係アル者ノミヲ舉ケテ其他ノ事端ヲ省キ以テ自説ヲ短縮スル等時宜ヲ斟酌スルヲ知ラザルベカラズ

第十九

初ニハ論題ノ性質ヲ思考シ次ニハ論題ニ適當スベキ議論ヲ考按シ次ニハ使用スベキ言語ヲ擇ベ其説述ニ當テハ力ヲ首段ニ用ユルヨリハ寧ロ末段ニ用ヒ中段ニ用フルヨリハ寧ロ首段ニ用ヒテ充分ニ之ヲ演ヘヨ又多辯ナル勿レ蓋シ演説ノ悠然タルト將タ肅然タルトハ當ニ時ト場所トノ便宜ニ從フベシ

第二十

思想ト云ヒ言語ト云ヒ共ニ最初胸中ニ生スルモノ

ヲ以テ滿足スベカラズ宜シク再數考按シ充分正確ナルニ至テ之ヲ演フヘシ

第二十一

言語ハ姑ラク度外ニ措キ先ツ專ラ論題ニ就テ明確ナル思想ヲ形出スベシ斯ノ如クスルトキハ事情ノ如何ナルモノハ論題ニ關係ナク又如何ナル事情ハ論題ニ關係アルヤ等ヲ明知スルヲ得ベキナリ

第二十二

時ト所トヲ問ハフ一定ノ言述法ヲ用フルハ是レ策ノ得タルモノニアラズ必ズ時ト所トヲ察シ或ハ撫字或ハ諂諂或ハ恐嚇ノ言語ヲ用ヒヨ

第二十三

準備ノ勝敗ニ關スルヤ大ナリ故ニ舌戰ヲ開クベキ以前ニ於テ當日討論スベキ論題ヲ考定シ以テ自己ノ議論ヲ構造シ而メ豫メ反對ノ議論ヲ擊破スヘキ方法ト自說ヲ嬰守スベキ方法トヲ考按セヨ

第二十四

事實或ハ理論ヲ演フルニ當リ常ニ其順序ニ注意セヨ順序正シケレバ聽衆ヲ感動セシムルヲ得順序宜シキヲ得ザレハ聽衆ヲ感動セシムルヿ能ハズ

第二十五

凡ソ演說ノ口調ハ時、處及ヒ論題ノ性質等ニ應ジテ

異ナラザル可カラズ故ニ或ハ嚴格ニ或ハ滑稽ニ或ハ勇壯ニ論述セヨ

第二十六

論端ヲ發クニハ宜シク首メニ其証明セント欲スル要ヲ擧ゲ次ニハ証明ノ方法ヲ陳ヘ然ル後云云ナリト其証明ヲ論出セヨ

第二十七

他説ヲ駁スル攻戰ト自説ヲ護スル守戰トハ其勢自ラ別アリ故ニ陳述ノ方法モ亦異ナラザルヲ得ス

第二十八

一事ニ關シ偶マ疑ヲ抱カハ自ラ充分ニ是ヲ吟味セヨ已ニ之ヲ吟味シタリト言フ者アルモ漫リニ其説ヲ信ズル勿レ

第二十九

議論ノ順序ハ之ヲ正フセザルベカラスト雖モ故ラ强テ其順序ヲ正フスルヿ勿レ

第三十

夥多ノ事實ヲ集ムルヲ勉メヨ事實ヲ知ラザレバ則チ以テ論勢ヲ强ムルヲ得ズ

第三十一

某事ニ關シテ説ヲ述フルニ當リ其事ノ發表セシ以前ノ事情ヨリ述フルハ發説ノ適當ナル順序ナリト

ス

第三十二

議論ノ要處ハ舌鋒ヲ鋭クシテ飽マテ主張セヨ一歩ヲモ反對者ニ讓ル勿レ

第三十三

自說ノ勝利明ナルニ當テハ理論ト事實等ヲ判別シテ之ヲ陳述シ其不利ノ虞アルニ當テハ理論ト事實トヲ混合シ以テ論旨ヲ曖昧模稜ニセヨ

第三十四

根據確實ニメ動カス可カラザルノ定說アラバ起端ハ處女ノ如ク勉メテ脆弱ノ容ヲ示シ初メヨリ脫兎ノ如ク捷利ノ氣勢ヲ示ス勿レ

第三十五

議論ハ須ラク初メヨリ自說ノ肯綮ヲ述フベカラズ先ツ多少自說ノ肯綮ニ關スル事柄ヨリ說キ起スヲ宜シトス

第三十六

初ニハ確乎不拔ノ主義ヲ述ベ後ニハ徐々ニ詭辯ヲ以テ他人ヲ籠絡セヨ

第三十七

自己ノ議論中確然不拔ノ點ハ何レニ在ルヤヲ思考セヨ

第三十八

常ニ聽衆ノ偏見ヲ洞知スルヲ肝要トナス必ス忽略ニ付スルヿ勿レ

第三十九

論題要旨ノ在ル所ヲ指摘開示スルハ論ナク其要旨ノ動モスレハ他事ト誤認シ易キ旨ヲモ陳説セヨ

第四十

德行ヲ翻説シテ匪行ナルカ如ク匪行ヲ翻説シテ德行ナルカ如ク巧ニ辨説セヨ

第四十一

自己ニ先チテ陳述セシ人々ノ演説中如何ナル説ハ聽衆ノ喝采ヲ得タルヤ又如何ナル説ハ誹譏ヲ得タルヤニ注意セヨ

第四十二

題目ノ如何ヲ問ハス他ノ題目ト區別スベキ特殊ノ事情ナクンハアラズ此事情ヲ發見スルヿ頗ル緊要ナリトス

第四十三

平常自己ノ尊敬スル人々ハ自己カ主張セント欲スル論旨ニ關シテ如何ナル旨意ヲ抱ケルヤニ注意セヨ

第四十四

輿論ニ反スル説ヲ主張スルニハ須ラク初ハ溫言ヲ以テ陳説シ漸ク進テ充分ニ諤々强辯セヨ初メヨリ口角吐沫ノ容ヲ以テスル勿レ

第四十五

議論二派ニ分レ各々判定ヲ異ニスル時ニ當テハ其二派ノ各同意スベキ論旨ヲ發見シテ二派ヲ調停シ以テ氣勢ヲ自説ニ收ムベシ是レ詭策ノ得タル者ナリ

第四十六

一事物ニシテ時ト處トノ異ナルヨリ幾樣ノ異觀ヲナスヿアリ故ニ之ヲ究察スルニ當テハ時ト處トヲ變易シテ考按セヨ且他人ハ其事物ニ就テ如何ナル觀察ヲナスカヲ探窺セヨ

第四十七

論題ヲ考察シテ自説ヲ一定セヨ他人ノ説ニ雷同スルヿ勿レ

第四十八

論者一般ニ受クル所ノ誤謬ヲ矯正セハ大ニ聽衆ノ信用ヲ得ン

第四十九

吾人ハ甚タ放恣ナルモノナリ同一ノ主義ニシテ已レニ不利ナルトキハ此ニ向テ排斥シ已レニ利ナル

トキハ之ヲ取テ辨資トス

第五十

吾人動モスレバ論題ノ全旨ヲ省ミス唯其一局處ニ就テ論決ヲ爲スヿアリ故ニ論者一般ノ決定中眞僞或ハ混合ス

第五十一

論題ヲ剖拆シテ其含蓄スル所ノ事類ヲ窮査シ其論點ニ關係ナキ者ハ之ヲ除去シ其實ニ論點ニ關係アル者ニ就テ論定セヨ

第五十二

平常見聞スル所ノ者ヲ以テ眞理ト爲シ其見聞セザル所ノ者ヲ以テ虛僞トナスハ誤謬ノ大ナル者ナリ

第五十三

對論者ノ說述明亮ナリト雖ヒ其論確然不移ノ根基ニ據ラザル時ハ最モ論難シ易シ

第五十四

問題ノ意義頗ル錯綜シ要點ノ所在ヲ發見シ難キ時ニ當テハ推窮ノ路ヲ數點ニ分チ其各點ヨリ要點ノ所在ヲ撿出セヨ

第五十五

前說ノ言辭ヲ換ヘテ前說ノ事理ヲ述ベ或ハ前述ノ言語ヲ飾リテ前述ノ事理ヲ論ジ以テ聽衆ノ思想ヲ

擾亂變改セシムルヲ得バ其利タルヤ多シ

第五十六

凡テ言辭ハ數義ヲ有スルモノ多シトス故ニ議論中至要ノ言辭ハ其何ノ義ハ例習ニ係リ何ノ義ハ某時代某ノ場所ニ之ヲ用ヒ何ノ義ハ某ノ著述者或ハ某ノ學派等ニヨリ各其意義ヲ異ニスルモノニ非ラザルヤ否ヲ案スベシ

第五十七

論題中曖昧不定ノ意ヲ含メル言辭混入スルトキハ其言辭ヲ抽拔シ以テ論題ノ性質ヲ明ニセヨ

第五十八

凡ソ反對者ノ主張說ヲ許容スル場合ニ於テハ多少制限シテ許容スベシ決シテ全ク許容スル勿レ且ツ平生他人ハ他說ヲ如何ニ許認スルヤヲ注意セヨ然ルトキハ己レ他說ヲ首肯スル時ニ當リ其程度ヲ酌定スルノ餘師アラン

第五十九

短刀直入ノ論法ヲ用ユル勿レ漸進緩歩以テ要點ニ論及セヨ

第六十

若シ甲者乙者ヲ贊称セシ場合ニ於テ已レ甲者カ乙者ヲ贊称セシヿニ同意スルヿアリ𪜈決シテ甲者カ

其賛称ニ基キテ縯繹スル推論ニハ同意スル丁勿レ

第六十一

甲結果ニ就キ其源因ヲ探求スルノ法、

(一)其甲ト同一ノ事柄ニ就テハ果シテ如何ナル事情ノ已ニ業ニ判然確知セラレ居ルヤ而シテ其已ニ業ニ判然明白ニ覺知セラレ居ル所ノ者ノ源因ハ果シテ何クニ在リヤヲ考査セヨ

(二)如何ナル事情ノ甲結果ニ先チテ現ハレシヤヲ省視セヨ

(三)今探求セント欲スル甲結果ヲ生セシ當然ノ源因ヲ考察セヨ

(四)單一ノ源因ノミニシテ甲結果ヲ生ズルヲ得ルヤ否ヤヲ思考セヨ

(五)甲結果ヲ生セシ源因數緒ナラバ先ツ其數緒ナル源因ノ各緒ニ就テ考究シ然ル後其源因ヲ一括シテ觀察論定セヨ

第六十二

凡ソ論辨ハ折衷ノ説ヲ取リ勉メテ極端ノ議論ヲ避ケヨ

第六十三

甲乙二者連續シテ發現スト雖モ必シモ源因結果ノ關係アルベキニアラズ故ニ草卒ニ推測シテ一ヲ源

因トナシ他ヲ結果トナスヿ勿レ

第六十四

例外意表ノ事情ハ著シク人心ヲ牽制スル者ニシテ吾人動モスレバ此事情ノ一ノミニ基キテ論定ヲ爲スノ虞アリ愼シムベシ

第六十五

論說ニ服スト雖ヒ其論旨ヲ實行スルニ非サレバ是レ眞服ニアラズ

第六十六

詭辨者ハ常ニ言辭ノ數義アルモノヲ撰ヒ此ニ於テ某ノ義ニ用ヒシ言辭ヲ彼ニ移シテ更ニ異ナル某ノ

義ニ用ヰ以テ人ヲ瞞着スルヿ多シ注意セズンバアルベカラズ、

第六十七

傳說、習慣、古人ノ說等ハ吾人ノ信用ヲ動カス木挺ノリ

第六十八

汝若シ甲ト共ニ乙ノ言行ヲ賛称セシ時ニ於テ甲再ヒ丙ノ言行ヲ賛称スルヿアラバ汝モ亦甲ト共ニ丙ノ言行ヲ賛称スルモノナリト他人ニ推想セラル、ノ嫌アリ此嫌ヲ避クルハ頗ル大切ナリトス

第六十九

論題ニシテ一般ノ意義ニ考フベキモノカ將タ特別ノ意義ニ考フベキモノカ判然決スル能ハザル者アルニ當テハ其論題ノ性質ト時ノ事實トニ因テ思考セヨ

第七十

意義廣濶ナル一般ノ演説ハ稍々制限ヲ加ヘテ以テ理解スベシ

第七十一

假令直接ニ緊要ナラザルモ重大ナル結果ヲ生ズヘキ者アリ注意セザル〻カラズ

第七十二

人心ヲ感動セシムベキ證據ハ果シテ如何ナル者ニ屬スルヤヲ考査セヨ

第七十三

説述ノ順序ヲ了知セヨ

(一)一般ノ緒言或ハ自説ニ同意ヲ促スノ言述

(二)抗論ヲ擊破シ或ハ駁論ニ答ヘヨ

(三)証據ヲ擧ゲテ自説ノ正當ナルヲ説示セヨ

第七十四

論題ニ重要ノ交陟アル事實ニシテ自説ノ安危ニ關スル者アルニ當テハ知ルカ如ク知ラザルカ如ク論スルガ如ク論ゼザルカ如ク滑然巧ニ之レヲ論過ス

ヘシ全ク之ヲ知ラズトナスヿ勿レ

第七十五

聽衆ノ傾聽スルハ如何ナル演説ニシテ其最モ好ム所ハ如何ナル辯舌ナルカ之ヲ窺ハズンバアルベカラズ

第七十六

自説ヲ論駁セラルヽトキハ先ツ之ニ答辨スベシ然ル後自説ヲ主張セヨ

第七十七

我カ道理カニ達セザル事ハ如何ナル證跡アルモ之ヲ信スル勿レ

第七十八

原按ノ廢止ヲ欲セバ原按ヲ非難スルヨリハ寧ロ原按維持者ノ陳説ヲ駁スベシ

第七十九

永久存續スベキノ事情ト其時ト所等ニ因テ異ナルヘキ一時ノ事情トヲ區別セヨ

第八十

眞ニ誤謬ト云フベキハ確實ナラザル者ヲ以テ確實ナリト假定シ又ハ時ト場所トヲ限リテ確實ナル事理ヲ以テ一般ニ確實ナル事理ト爲シ或ハ源因ナラザル者ヲ認メテ源因ナリト爲ス者是ナリ

第八十一

利己ノ便宜ニ從ヒ或ハ議論ヲ嚴密ニシ或ハ議論ヲ范漠ニシ以テ對論者ノ理會ヲ惑亂セヨ

第八十二

事理ノ論題ニ緊切ナルト實際毫モ關係ナキモノトニ者連結シテ恰モ相互ノ關係アルカ如キ觀ヲ現ハスヿ多シトス故ニ其關係ナキ事理ヲ考察シテ之ヲ摘去スルハ誤謬ヲ表出スルノ好手段ナリ

第八十三

議論ノ大主義ハ論題ノ如何ニ關セズ其數僅少ナル者ナリ故ニ曾テ攻擊セシ主義ヲ將テ自說ヲ防禦シ或ハ前ニ排斥セシ主義ヲ主張シ或ハ前ニ主張セシ主義ヲ排擊セザルヲ得ザル必須ノ場合ナキニ非ス

第八十四

自說ノ全體ヲ熟察セバ稍々反對者ノ心情ヲ慰愉シ或ハ反對者ヲシテ自說ニ同意セシムヘキ事理ナキニ非ズ

第八十五

社會ノ病害ヲ治セント欲セバ先ツ其病源ヲ探究セザルベカラサルハ論ナク過去及現在ノ情狀并ニ未來ニ現出スベキ情狀ヲ觀察セザル可ラズ

第八十六

反對者ノ陳述シタル議論ヲ指シテ其説ハ他事ヲ證説スル者ニシテ現ニ吾儕ノ論スル本案ヲ論證スル者ニアラズト辨難スルハ我カ智見ノ該傳ナルト舌鋒ノ鋭利ナルトヲ聽衆ニ示スノ猾手段ナリ

第八十七

論題ハ如何ニ眞面目ナルモ仔細ニ之ヲ視察スルキハ諧謔滑稽ヲ挿入スベキ部分無キニアラズ而シテ自己ノ論勢ヲ挫障セザル諧謔滑稽ノ適例アラバ之ヲ挿入セヨ是レ聽衆ヲシテ自説ニ歸向セシムルノ一法ナリ

第八十八

自己ノ論中動モスレバ攻撃ヲ受クヘキ部分ヲ察シ豫メ答辨ノ准備ヲセヨ蓋シ反對者ノ攻撃ヲ待テ之ヲ粉齏スベキ論駁ヲナサンカ爲メニ故ラニ自説ノ弱勢ヲ示スハ是レ詭策ノ上乘ト謂フベシ

第八十九

如何ナル場合ニ於テモ直ニ自説ヲ中止スルヲ得ベキ爲メニ論決ハ必ス機ニ臨ミ變ニ應シテ適用スベキノ思考ヲ豫定スベシ

第九十

議論ヲ證明シ或ハ之ヲ脩飾スルカ爲メニ他事ヲ引援セント欲セバ成ルベク世上一般ノ俗談平話或ハ

當日若クハ前日ノ新聞紙上ノ事件或ハ既ニ議場ニ現出シテ已ニ衆人ノ能ク了知スル事理ヲ用ヒヨ蓋シ其引援セシ事理ハ證明或ハ脩飾セント欲スル議論ニ適切ナルベキハ論ナク聽衆ノ嗜好ニ投スル者ヲ撰フベシ

第九十一

若シ對論者中ノ一個人ニシテ根據脆弱考按粗笨ノ陳說ヲナス時ハ總反對者ノ陳說モ亦根據脆弱考按粗笨ナル者ノ如ク論證スル丁敢テ難キニ非ズ故ニ其一箇人ノ陳說ヲ以テ直ニ總反對者ヲ攻擊スルノ矛戟トセヨ

第九十二

我ヲ駁スルニ謾語嘲言或ハ奇異ノ言語ヲ以テセハ之レニ答辨スルニ當テハ其言語ヲ反用セヨ然ルトキハ答辨ノ効一層大ナラン

第九十三

他說ヲ攻擊スルニ當テハ自說ニ注意シ敵ニ糧ヲ齎シ盜ニ鑰ヲ貸シ以テ自己ヲ攻擊セシムルカ如キ過失ヲ爲スヿ勿レ若シソレ他說中ヨリ取テ以テ攻擊ニ反用スベキ部分ヲ撿出スル丁アラバ是レ極メテ妙ナリトス

第九十四

名論卓説ト雖モ其主張者ノ演説ニ巧ミナラザルカ爲メニ惜ムベシ其論勢ヲ失ヒ聽衆ノ注意ヲ惹クヿ能ハザルヿナキニ非ズ若シ如此場合ニ會セハ故ラニ原論者ト演説ノ句調ヲ異ナラシメテ陳述スル時ハ他説ヲ奪ヒテ以テ自説ト爲スヲ得ヘシ

第九十五

人ノ説了ヲ待テ演説スレハ一利アリ即チ自説ニ反對スル論中最モ薄弱ナル者ヲ撰テ之ヲ反駁シ且ツ諸論者ノ諸説中ヨリ自説ヲ保護スルニ足ルヘキ資料ヲ收拾スルヲ得ン

第九十六

自説ノ賛成ヲ得ント欲セバ自説ヲ發スルノ機會ヲ失フヿ勿レ早キニ失スル勿レ晩キニ失スル勿レ

第九十七

議場ニ在テ演説スベキ機會ハ訥辨ナル説者ガ不活發ナル演説ヲナシ聽衆皆欠伸ヲ來セシ時ニ乘ジテ洪聲ニ活潑ニ辯ヲ鼓シテ演説スルニ在リ必ス大ニ聽衆ヲ感動セシムルヲ得ン

第九十八

甲ノ論題ニ就テ説述スルニ當リ自後乙論題ヲ議スルニ至テ現ハスヘキ行爲舉動ノ地歩ヲ爲シ置キ而シテ乙ノ論題ヲ議スルニ至テハ其嘗テ爲シ置キタ

ル地歩則チ行爲舉動ニ訴ヘヨ斯ノ如クナス片ハ人ヲシテ終始一定ノ主義ヲ抱ケル有識者ナリト自己ヲ称セシムルヲ得ン然レ𪜈此詭策ヤ他人モ亦施用スルヿアルベキヲ以テ能ク他人ノ甲論題ニ就テ現ハス舉動トヲ乙論題ニ就テ現ハス舉動トヲ視察シテ其詭策ヲ發見スルヿヲ勉メ若シ其果シテ他人カ此詭策ヲ施シタルヿヲ看破セハ充今ロヲ極メテ非難セヨ然ルヰハ是レ亦人ヲシテ注意周到ノ觀察者ナリト自己ヲ称セシムルヲ得ン即チ詭策ノ妙ナル者ナリ

第九十九

一事ヲ議スルニ方リ己レ現在表ハサントスル舉動ハ果シテ前日己カ現ハセシ舉動ニ矛盾シ爲メニ反對者ニ攻擊セラルヽノ虞ナキヤ否ヤ又攻擊セラルヽモ充今辨解シ得ベキヤ否ヤヲ考ヘヨ而シテ反對者ノ舉動ニ就テモ亦宜シク反對者カ現ニ表ハセン舉動ハ嘗テ反對者カ現ハセシ舉動ニ矛盾スル無キヤ否ヤ若シ矛盾スルトセハ之ヲ攻擊シテ可ナルヤ否ヲ察ヒヨ

第百

凡ソ演説ハ冗長ナル冒頭ヲ用ヒズ勉メテ速カニ要点ニ論及セヨ又法律家カ法律ヲ論スルカ如ク議論

ヲ數項ニ分畫スルハ甚タ宜シカラズ其尤モ當サニ忌ムベキハ演説冗長ニシテ聽衆ヲ倦マシムル是レナリ故ニ若シ已ムヲ得ズ演説久キニ彌ル時ハ先ツ聽衆ニ對シテ諸賢予ニ貴重ナル數分時間ヲ貸與シ予ヲシテ簡短ニ予カ説ヲ卒ハルヲ得セシメヨナト、述ベ苟モ聽衆ヲシテ其彌久ノ演説ヲ爲サント欲スルノ意ヲ覺知セシムル勿レ而シテ演説稍々長キニ亘リ聽衆少シク倦心アルノ狀ヲ見ハ一時演説ヲ止メテ更ニ聽衆ニ對シ予ハ斯ノ如キ冗長ナル演説ヲナシテ諸賢ノ高聽ヲ煩ハス意ニアラザリシト雖ヒ論勢止ヲ得ズシテ覺ヘズ爰ニ至レリ仰キ願クハ滿場ノ諸賢予ニ尚ホ分時ヲ假スノ幸榮ヲ垂レヨ杯ト詞ヲ文リテ寛恕ヲ請フベシ斯ノ如クスルトキハ幾分カ聽衆ノ倦心ヲ慰愉シ且ツ演説ニ耳ヲ傾ケシムルヲ得ン

第百一

自己カ主張セント欲スル論旨ト動モスレバ反對者カ之ニ對シ攻擊ヲ加フベキ議論トヲ思察按撿シテ互ニ之ヲ比較セヨ然ルトキハ豫メ自説ヲ防キ對論ヲ辨駁スルノ詭策ヲ發見スルヲ得ベシ

第百二

議場ニ在テハ常ニ衆論ノ傾向ハ何レノ點ニアルヤ

ニ注意セヨ

第百三

種々ノ點ヨリ論題ヲ觀察セヨ然ルトキハ其論題ニ對スル自己ノ思想ヲシテ順序正シク且ソ明白ナラシムルヲ得ベキナリ

第百四

凡ソ演説ハ勉メテ謙退辭讓ノ言語ヲ用ヒ衆人ノ愛敬ヲ求メヨ粗暴過激ノ言語ヲ放チ衆人ノ疾視ヲ招クヿ勿レ

第百五

凡ソ對論ノ緊要ハ敵論ノ根基ト其脉線等ヲ察スル

ニ在リ而シテ敵論者ノ詭策ヲ以テ避ケタル所アルヲ發見セバ直ニ其所ニ向テ進擊セヨ

第百六

他人ノ陷落シタル困難ハ假令其全体ニ非サルモ十中ノ七八ハ陳説ノ方便ヲ以テ之ヲ避ケ得ベキヤ否ヤヲ思考セヨ

第百七

衆論ヲ壓倒シテ自説ノ勝ヲ制スルノ道ハ屢々議論ノ正當ナル境域ヲ踰越シ稍々極端論ヲ主張スルニアリ蓋シ單ニ自説ヲ述ブルニ止マラバ敢テ極點ニ至ルヲ要セズト雖モ苟モ勝ヲ制セント欲セバ勢ヒ

敵論ヲ排擊論駁セザルヲ得ス而シテ其排擊論駁ヲ爲サンニハ勢ヒ極度ニ至ラザルヲ得ス

第百八

敵論者ノ數々論旨ヲ變更スル所ヲ列擧シ笑フカ如ク嘲ケルガ如ク諧謔以テ論難ヲ加フルハ時ニ或ハ大効驗アリ

第百九

凡ソ論題ハ其性質ヲ諒知スルヲ以テ緊要トス然レ𪜈論題ノ其眞ノ性質ヲ明知スル能ハザル者アルニ當テハ宜シク自己ノ見解ヲ以テ其性質ヲ斷定シ且ツ聽衆ヲシテ自己ノ斷定ニ同意セシムルヿヲ勉メヨ若シ反對ノ意見ヲ述フル者アラバ之ヲ駁スルニ左ノ如キ言述ヲ用ヒヨ曰ク

(一)高説ハ是ニ似テ非ナリ

(二)假令高説ヲ是ナリト爲スモ本題ニ就テハ應用シ得ベカラザルモノナリ

第百十

討論中反對者ノ過去若クハ現在ノ主義或ハ辨説或ハ行爲等ヲ暗ニ指摘シテ批評セヨ

第百十一

自己ノ陳セント欲スル議論ハ一般ノ主義ニ根基スル者ナルカ或ハ一時特別ノ處置ヲ主張スル者ナル

カヲ思考セヨ而シテ一般ノ主義ヲ守テ事ヲ處置セント欲スル者ナラバ宜シク議論ヲ茫漠ナラシメ且ツ時ト所トヲ問ハズ常ニ一般ノ主義ニ遵フノ必要ト過去ニ於テ一般ノ主義ニ遵ハザルニヨリ弊害ヲ生ゼシ類例ヲ示スベシ若シ特別ノ處置ヲ主張スル者ナラバ活動社會ニ在テ實際ニ事ヲ處置スルノ要ハ決シテ一定ノ主義ニ固着セズ常ニ臨機應變ノ策ヲ施行スルニアリト述ベ且ツ嘗テ一般ノ主義ニ據テ實施セシ失錯ノ特例一二ヲ擧示セヨ

第百十二

論題ノ重大ナル者（一國ノ安危ニ關スルガ如キ類）ニ當テハ勉メテ雄壯華麗ノ言語ヲ以テ演説セヨ若シ論題ニシテ聽衆ヲ感動セシムルヿヲ要スル者（救助憐恤ヲ請求スルガ如キ類）ナル片ハ簡短悲愴ノ言語ヲ用ヒテ演説セヨ

第百十三

反對者ノ駁論ヲ反駁シ以テ自説ヲ防護スルニ最モ有効ナル策ハ反對者ノ説ヲ實行スル時ニ起ルベキ極度ノ弊害ヲ列擧シテ非難ヲ加フルニ若クハナシ

第百十四

演説中時々聽衆ニ阿ネルノ言語ヲ以テスベシ

第百十五

若シ反對者ニメ某議論ヲ以テ甲ノ事理ヲ證明セント欲スル者アラバ之ニ對シテ其議論ハ亦能ク乙ノ事理ヲモ證明スルヲ得ベキモノニシテ特ニ甲ノ事理ノミヲ證明スベキモノニ非ザルヿヲ論辨セヨ

第百十六

例解ヲ以テ議論ヲ證明セント欲セバ其例解ハ珍奇微妙ニシテ且ツ論旨ニ最モ適切ナル者ヲ擇ヘ

第百十七

假令反對者ノ主張スル主義ヲ是認スルヿアルモ其主義ヨリ抽出シタル推知ハ之ヲ非認セヨ

第百十八

凡ソ演説ヲ爲スニ當テハ初ハ聽衆ニ向テ阿諛ノ言述ヲ爲シ將ニ局ヲ結ハントスルニ及ビ聽衆ヲシテ眷戀欽慕ニ堪ヘザラシムルノ言述ヲ爲スベシ

第百十九

甲論題ヲ討議スルニ當リ若シ反對者ノ攻擊スルヿアラバ左ノ言ヲ以テ防禦セヨ曰ク反對者ノ所論タル乙論題ニ就テ主張セラルヽ時ハ稍々其當ヲ得ルトセン然レモ本題トハ乙論題トハ云々ノ點ニ於テ自ラ異ナル理由アリ故ニ乙論題ニ適スル説ヲ用ヒテ本題ヲ論ズルハ是レ全ク兩題ノ異同ヲ解知セザル者ニシテ甚タシキ謬見タルヲ免カレズト

第百二十

理論ヲ以テ聽衆ヲ感服スル丁能ハザル時ニ在テハ婉麗ニシテ光彩アル比喩ヲ用ヒヨ斯ノ如キ比喩ハ衆目ヲ迷眩セシムルモノナリ

第百二十一

不確ノ議論ヲ確實ナルカ如ク特別ノ事柄ヲ以テ一般通常ノ事柄ナルカ如ク通常ノ事柄ヲ以テ全ク非常ノ事柄ナルガ如ク論述スルハ是レ討論法ノ秘訣ナリ

第百二十二

議場ノ論勢已レニ不利ナルトキハ玄妙ニシテ意義不定ノ言語ヲ撰用シ且ツ勉メテ議論ヲ斷々分割シ以テ對論者ノ思想ヲ惑亂スルノ策ヲ立テヨ

第百二十三

敵論ヲ批難セントスルニ當リ確固ナル議論ヲ有セザル時ハ專ラ敵者ノ用ヒシ言語ヲ咎メヨ

第百二十四

敵論確實牢固ニシテ抵抗スル能ハザルトキハ突拂滑稽唯々籠絡ノ機知ヲ施セ時ニ或ハ利ヲ得ルヿアラン

第百二十五

抗論ヲ排斥スルヲ得ベキヲ前知セバ初メハ反對說

ノ幾分ヲ許セ斯ノ如クナル片ハ大ニ公平無私ノ外觀アリテ一層自說ノ光彩ヲ增スヲ得ン

第百二十六

凡ソ事ヲ處置スルノ法ハ時ト所トニ由テ差異ナクンバアラズ然ルニ世人往々時ト所トヲ省ミス往時ノ處置ニ比較シテ以テ今代ノ事ヲ處置セントス是レ決シテ正當ノ論ト謂フベカラザルナリ

第百二十七

一ノ事實ト其事實ニ基キタル議論トハ之ヲ區別セヨ

第百二十八

敵論者ノ抗抵ヲ排斥スルノミヲ以テ滿足スル勿レ尚ホ進テ敵論者大体ノ論旨ヲ轉覆センヿヲ勉メヨ

第百二十九

議論ノ大主義ハ敢テ不當不正ナルニアラザルモ其主義ヨリ推測セシ判定ハ屢々不正ナルヿアリ視察セザルヘカラズ

第百三十

反對者ノ陳述スル所設令誤謬ニアラザルモ之ヲ論駁シテ本論題ニ關係ヲ有セズト爲シ而シテ其理由ヲ舉示スル片ハ敵者ノ勢力ヲ弱ハシムルヲ得ルモ

ノナリ

第百三十一

若シ論題ヲ狹隘ニ見ルノ不利ナルトキハ其論題ニ關係アル事情ヲ網羅列擧シテ以テ一般即チ廣濶ナル論題トセヨ

第百三十二

前説ノ不分明ナル所ヲ注解スルヲ以テ口實トナシ屢々全体ノ論旨ヲ增進スル一アリ是レ猾策ノ至レルモノナリ注意セザルベカラズ

第百三十三

極端ノ議論ト雖モ初メハ通常ナル點ヨリ説キ漸々進ンデ極點ニ論及スルトキハ敢テ反對者ヲシテ激怒セシムルニ至ラズ能ク自説ヲ反對者ノ腦中ニ注入スルヲ得ベシ

第百三十四

反對者ノ陳説ヲ資テ反テ自説ヲ解釋シ及ヒ反對者カ前日ニ主張セシ説ト今現ニ主張スル所トヲ比較シ以テ其矛盾ヲ發見非難スルヲ得ハ勝ヲ制スルノ妙策ト謂フベシ

第百三十五

人ノ見テ以テ毫モ論題ニ關係ナシト爲スノ事理ニシテ其實ハ論題ニ關係アル者ヲ蒐集列示スルトキハ

則人以テ有識具眼ノ士ナリト爲シ之ヲ称シ之ヲ敬スルニ至ラン是レ則チ人ヲ服スルノ一策ナリ

第百三十六

論題ノ如何ヲ問ハズ種々ノ理點ヨリ論述セヨ必ズ一ノ理點ヨリ論ズルヿ勿レ然ルヰハ人称シテ博學ノ士ナリト謂ハン

第百三十七

敵論者ヨリ駁論ヲ受ケシ場合ニ於テ却テ我ヨリ進テ敵論者ノ説ニ攻撃ヲ試ムレバ答辨ノ勞ヲ避クルヿヲ得ベシ

第百三十八

反對者カ特別ナル事理ノ證明トシテ陳述シタル所ノ證據ハ或ハ其特別ナル事理ノミノ證據ニアラザルヤ否ヲ考査セヨ

第百三十九

若シ論題ノ全体ニ就テ論ズルノ不利ナルヰハ止々其論題中一部分ノ論旨ヲ以テ論題全體ノ大要ナルガ如クニ論辨セヨ

第百四十

救濟法等ヲ議スルニ當テハ第一ニ其方法ハ果シテ弊害ヲ救治スルニ適スル者ナルヤ否ヤ第二ニ果シテ實行スルヲ得ベキ者ナルヤ否ヤ若シ果シテ實行

スルヲ得ヘキ者トセバ之ヲ實行スルヨリシテ反テ救濟セント欲スル弊害ヨリハ寧ロ一層大ナル弊害ヲ生ズルノ虞ナキヤ否ヤ而シテ若シ新ニ一弊害ヲ生ズベキ傾向アル時ハ其新弊害ハ又新ニ一ノ救濟法ヲ設ケテ之ヲ防キ或ハ之ヲ救濟スルヿヲ得ベキヤ否ヤヲ推考セヨ

第百四十一

何事ニ因ラズ人ハ明ニ己レノ眞意ヲ口ニ發スルモノニアラズ其口ニ唱フル所ト心ニ秘スル所トハ同一ナラザルヿ多シ故ニ他人ト議論スルニ當テハ他人カ口ニ主張スル正面ノ理由ヲ批評センヨリハ寧ロ其心ニ秘スル所ノ眞意ヲ窺測摘發シテ之ヲ論セヨ是レ論法ノ最モ得タル者ナリ

第百四十二

敵者若シ某事ヲ主張スルハ斯々ノ望ミアルニ由レリト謂ルヿアラバ宜シク左ノ如ク論駁セヨ曰ク若シ敵者ノ望ム所果シテ其言フ所ノ如クンバ何ゾ斯々ノ議論ヲ主張セザル今其然ラザルヲ以テ之ヲ察スルキハ其口ニ唱フル所ハ眞意ニ非ラザルヿ既ニ明白ナリト

第百四十三

自己ト同場ノ論者ニ對シテハ獨リ現行ノ處置ノミ

ナラズ其既行ノ處置ヲモ之ヲ思考セヨ之ヲ思考スルハ討論ノ際時ニ或ハ大利ヲ得ルヿアラン

第百四十四

平生先哲ノ著書ヲ讀ミ其簡ニシテ深意ノ句節ヲ諳記セヨ

第百四十五

言語上ノ詭辨中其最モ好キ者ハ一辭數義ヨリ起生スル所ノ者ニアラズ文章全體ノ意義ノ不明ヨリ起生スル所ノ者ナリ

第百四十六

聽衆ノ理解カハ詭辨、譬喩、及感情ニ觸ル、等ニ因テ混亂セシムルヲ得ベシ

第百四十七

歴史ニ載スル事實ノ順序ヲ變シテ陳スル片ハ啻ニ其順序ノミナラズ其事實ノ性質ヲシテ一變セシムルヿヲ得ルナリ

第百四十八

他人ノ詭辨ヲ發見セント欲セバ其人ノ陳述スル演説ノ冒頭ト陳述ノ口調トニ注意セヨ詭辨ノ基礎ハ常ニ爰ニ伏セリ

第百四十九

敵者ノ論述セシ論説ノ中段ヲ除キ初段ト末段トノ

ミヲ舉ケテ之ヲ再陳スルトキハ其論ヲシテ非常ニ氣カナク且ツ笑フベキ迂説トナラシムルヲ得是レ未タ方向ヲ定メザル聽衆ヲ誘ヒ之ヲシテ彼ヲ去ツテ我ニ就カシムルノ籠絡手段ナリ

第百五十

確乎不拔ナル議論若クハ答辯ノ胸中ニ生ジタル時洞然一時ニ之ヲ論述スルハ不可ナリ宜シク先ツ通常一般ノ陳説ヲ爲シ此ヲ以テ充分滿足スル者ノ如キ体ヲ爲シ然ル後進ンテ其確固不拔ニシテ爭フ可ラズト自認スル説ヲ吐露スベシ然カスルトキハ其論決ヲシテ殊ニ重カラシムルヲ得ン

第百五十一

他人ノ議論ニ就テ最モ注意スベキモノニアリ

(一)議論果シテ眞ナルヤ否ヤ

(二)果シテ眞理ナラバ論題ニ應用シ得ヘキ者ナルヤ否ヤ

蓋シ議論ニハ半信半偽ナルモノアリ又全ク眞ナル者ト雖モ能ク論題ニ適スルヲ得ルモノ稀ナリ故ニ其幾部ハ眞ニ屬シ幾部ハ偽ニ係リ又果シテ眞ナラハ幾部ハ論題ニ適スルヲ得幾部ハ論題ニ適スルヲ得ザルヤヲ區別スルヲ以テ緊要トス

第百五十二

若シ議場ノ論勢自己ニ不利ナル時ハ論題中自己ノ説ヲ守ルニ最モ便宜ナル部分ト最モ聽衆ヲ慰愉スベキ事理トヲ思考セヨ而シテ自己ニ不利ナル部分ハ決シテ之レニ舌頭ヲ觸ル、勿レ專ラ其自己ニ便宜ナル部分ト其聽衆ヲ慰愉スベキ事理ノミヲ口説セヨ

第百五十三

論者ハ十中ノ八九饒辯ニ失シテ過言ノ過チヲ犯スモノナリ斯時ニ當テハ我カ舌鋒ヲ過言ノ點ニ進メテ攻擊セヨ然ルキハ假令全勝ヲ期スル能ハザルモ大ニ敵者ノ論勢ヲ挫クノ利アリ

第百五十四

凡ソ議論ハ腹按ノ全部ヲ吐露シ昼クスヿ無ク宜シク其幾分ヲ遺シテ後論ノ要ニ供セヨ又自論中對論者ニ答辯スルニ最モ能ク適スル論點ハ果シテ何レナルヤヲ豫定シ置クハ甚タ緊要ノヿナリトス

第百五十五

攻擊ノ舌鋒ハ一敵手ノ議論ノ撞着ナル點ト敵手各人ノ議論ノ牴牾スル點ニ向テ勇進スルニアリ

第百五十六

敵手若シ嚴肅ナル議論ヲ以テ攻擊シ來ルキ之ニ答フルニ嘲笑ノ言語ヲ用ヰヨ若シ又敵手ノ攻擊右ニ

反スル片ハ答辨モ亦右ニ反スベシ

第百五十七

事ヲ述フルニ滑稽諧謔ヲ以テ始メシ片ハ常ニ其諧謔ニ次クニ嚴格肅靜ナル議論ヲ以テスベシ蓋シ諧謔嚴肅交互相伴フトキハ自ラ議論ニ抑揚ノ波瀾ヲ生シ聽衆ニ大ナル感動ヲ與ヘ且ツ其諧謔ノ言モ敢テ故ラニ聽衆ノ笑ヲ買ハント欲シテ陳述セシモノニアラザルガ如ク聽衆ニ信セシムルヲ得ントス

第百五十八

自己ノ主張セント欲スル論題ニシテ若シ輿論ニ反スルモノナルトキハ直ニ之ヲ主張スルヿナク姑ラク沈黙シテ各反對者ヲシテ其意見ヲ陳述セシメ而シテ對論者中我ノ攻擊シ易キ主義ニ基キテ論述スルモノアルニ及テ突然起ツテ先ツ其對論者ノ說ヲ攻擊スベシ而シテ其攻擊中暗々裏ニ我カ持論ヲ陳述スベシ

第百五十九

演說中若シ某事件ヲ嘲弄セント欲セバ始メニ嚴肅ナル口調ヲ以テシ漸ク進ンデ俗話ノ口調ヲ以テ論スベシ

第百六十

議場ニ臨ミ如何ナル時機ニ於テ發言シ如何ナル人

ノ説ニ對シテ答辨スベキカヲ豫メ思定シ置クトキハ議場ニ在ツテ演説ヲ爲スニ當リ其演説ノ論旨ハ即時ニ案出セシ者ナルガ如キ觀アリテ聽衆ヲシテ學識富贍ノ士ナリト感セシムルヲ得ン

第百六十一

若シ自論ニシテ勝ヲ制スルノ難キヲ覺ラバ敢テ冗長ノ辨ヲ費ヤスヲ爲サズ「反對論者ノ説ニ從ハヽ大ナル害毒ヲ惹起スル」アラン」等ノ言語ヲ用ヒテ結論セヨ

第百六十二

嘲弄非難若クハ詰責ノ演説ヲ爲スニ當テハ明々ニ之ヲ述ベンヨリ寧ロ暗々ニ之ヲ述ベ以テ他人ノ攻撃ヲ受クルニ當リテ容易ニ逃遁スルノ地歩ヲ爲スベシ

第百六十三

一個人若クハ一般ノ党派ヲ攻撃セント欲セバ先ツ称賛シテ後ニ攻撃セヨ此ノ如クスレバ攻撃ニ關セサル人々ハ勿論其現ニ攻撃ヲ受ケタル人々ノ心ヲシテ多少温和ナラシメ且ツ其議論ヲシテ頗ル公平ノ肴アラシムルノ利益アリ

第百六十四

法律規則等ノ示ス所ニシテ論題ニ多少ノ關係ヲ有

スルモノアラバ演説中ニ之ヲ陳述セヨ此ノ如クスレハ演説ニ一層ノ光彩ヲ加ヘ且ツ聽衆ヲシテ我ヲ博識ナリト信セシムルノ利アリ

第百六十五

華麗ナル文章ノ腹稿ヲ豫定シ討論中偶然ニ起ル所ノ論題ニ關シテ之ヲ陳辨セヨ但此場合ニ於テハ始メハ先ツ稍々躊躇ノ態ヲ示シ故ラニ鄙陋ノ言語ヲ用ヒ遂ニ漸ク按出シタルモノヽ如ク其華辭ヲ演出スベシ是レ聽衆ヲシテ大ニ感覺ヲ起サシムルノ方策ナリ

第百六十六

若シ論題ノ性質或ハ一身ノ關係ニ由リ某事ノ是非ヲ斷定スルノ不可ナルヲ知ラハ其意見ヲ演ブルニ明ラカニ我カ議論ヲ發露セズ唯ダ漠然ト陳辨スベシ

第百六十七

辨論ヲ熟知スル者ノ讓歩論ヲ爲スハ其外觀ハ公平ナルガ如シト雖ヒ其實ハ最モ狡猾手段ニ出デシモノタリ何トナレバ其自論ニ多少ノ不利アルヲ憚ラスシテ讓歩ヲ爲ス所以ノ者ハ嚴烈ナル詰論ヲ被ムルヿアル時ハ此讓歩ヲ以テ遁辭ニ充テントノ僞計タルニ過ギザレバナリ蓋シ此計タルヤ我レニ在ツ

テ之ヲ爲スハ舌戰法ノ得タルモノナリト雖モ若シ敵手ノ之ヲ爲スヿアラバ直ニ摘發シテ其狡猾手段タルヲ排斥スベシ

第百六十八

某論者ノ論旨又ハ行爲ヲ辯護セントスルニ當リ强テ之ヲ回護セバ必ズ聽衆ノ揶揄ヲ招クノ恐アリト雖モ勢ヒ回護セザルヲ得ザル場合ニ於テ則チ一策アリ他ナシ某論者ノ說又ハ其行爲ノ不良ナル點ヲ稍々輕減スルヿ是ナリ例ヘハ某論者ノ說又ハ其行爲ハ素ヨリ称賛スベキモノニ非ラズト雖モ亦諸君カ痛ク喋々セラルヽカ如ク不良ナルモノニ非ラズ又某論者ハ始メヨリ諸君カ呶々ト詰難セラルヽカ如キ惡意ニ淵源シタルニ非ズト辯護ヲ試ムルニアリ

第百六十九

諺ニ先ンスレバ人ヲ制シ後ルレバ人ニ制セラルトヽ云ヘリ故ニ或ル論者ニシテ確實必勝ノ議論ヲ唯々僅ニ些少ノ事情等ヲ誤リテ論出シ而シテ論者自ラ其誤謬ヲ覺ラザルヿアラバ我ヨリ其誤謬ヲ指示シテ先ヲ取ルベシ若シ又論者ニシテ毫モ事情等ヲ誤ツヿナク論明スルヿアラハ我ヨリ先ツ將サニ論究セントスル議論ノ大意ヲ陳述スベシ而シテ此兩者

孰レノ場合ニ於テモ論者ノ説ハ到底論題ニ關係ナク毫モ價直ナキモノナリト批評スルハ大ニ利益スルヿアルベシ

第百七十

若シ敵論者我ニ對シテ珍奇ナル譬喩或ハ嘲弄ノ言語等ヲ使用スルヿアラバ則チ其譬喩言語ヲ資テ以テ之ヲ敵論者ニ反用スベシ

第百七十一

若シ敵論者或ル事情ニ因リ明白ニ論及シ得ザル事情アルニ當テ暗ニ某事ヲ説明スルヿアラハ宜シク我ヨリ其敵論者ノ心中ヲ洞察シ其秘スル所ヲ摘發シテ聽衆ニ知ラシムベシ而シテ敵論者ニ對シ堂々タル此公會議場ニ於テ陽ハニ論述スルヿヲ爲サズ隱ニ其事ヲ示サント企ツルハ豈ニ狡猾ノ至リナラズヤ」等ノ言語ヲ以テ攻擊ヲ試ムベシ

第百七十二

敵論者ノ演述シタル議論ノ主意ニシテ若シ論題ニ適中セザル片ハ單ニ其論題ニ適中セザルヿヲ示スノミニ止マラズ之ニ加フルニ論者カ曩ニ演述シタル論旨ヲ論題ニ應用セント欲セバ斯々云々ニ之レヲ述ベサルヲ得ズト教示セヨ

第百七十三

敵論者專ラ譬喩ヲ引キ其論ヲ裝飾スルヰハ其粧飾ヲ排去シ平々ノ言語ヲ以テ明ラカニ其論者ノ論意ヲ反陳セヨ然ルヰハ之ヲ攻擊スルニ頗ル容易ナルヲ覺エン

第百七十四

一問題ニシテ若シ議場ノ大問題トモ爲ルベキモノナラバ其問題ニ就キ世上一般ノ風評アルナルベシ又議場ニ於テモ未タ其問題ヲ討議セザルノ前ニ於テ己ニ其評論ナシトスベカラズ故ニ能ク是等ノ事ニ注意シテ聞知ニ怠ラザルヰハ其問題ノ性質并ニ之ニ關スル評論ヲ察知スルヲ得ン

第百七十五

豫メ議論ノ要點ヲ摘記シ置クノ必要ナルヿハ己ニ之ヲ示シタル如シ而シテ其記載法ハ条項ヲ分チテ可成的簡單ナランヿヲ要ス否ラザレバ則チ討論ノ際自己カ要スル個条ヲ認ムルニ當ツテ恐ラクハ渋滞ノ憂ヒアラン

第百七十六

クラサス氏雄辯問答(書名)ニ曰ク常ニ演壇ニ臨デハ須ラク先ツ稍々躊躇ノ模様ヲ示スベシ

第百七十七

若シ反對者ニシテ嘗テ政府ノ官吏タラバ往時其人

ノ施行シタル所置或ハ賛成セシ法律又ハ其時ノ新聞雑誌等ヲ參看セヨ然レバ反對者ヲ攻撃スル議論ノ材料トナルベキモノヲ撿出スルヲ得ベキナリ

第百七十八

議論ノ要點ニ論及スルノ前ニ先ツ聽衆ノ感情ヲ得ンヿヲ勉メ然ル後或ハ論述シ或ハ辯護シ又ハ駁撃シ最后ニ至ツテ大ニ自論ノ帮助トナルベキモノヲ主張スベシ

第百七十九

若シ駁撃ヲ受ケタルトキハ直ニ其駁撃者ノ性質或ハ其平生ノ行爲及ヒ其品位持論等ヲ思考シ此レヲ推シテ論駁ヲ試ミヨ是レ遥カニ唯々自説ノ正當タルヿヲ辨護スルニ勝サルノ手段ト云フベキナリ

第百八十

凡ソ一身上ノ攻撃論ニハ過激ノ言ヲ以テ論難ヲ加ヘンヨリハ寧ロ嘲弄ノ言ヲ以テスルニ若カス

第百八十一

事情ノ同一ナラザルトキハ其原因ノ同一ナリト雖トモ必スシモ眞ニ同一ノ結果ヲ生ズル者ニ非ス

第百八十二

議論ノ結局ニ至ルマデハ輕忽ニ己レノ思想ヲ明瞭ニ陳シ昼クスヿ勿レ

第百八十三

我議論中動モスレバ反對論者ノ故ラニ誤認セシ態ヲ爲スベキ點ヲ豫メ思考セヨ

第百八十四

敵論者ヲシテ一歩ヲ讓ラシメント欲セバ先ツ其說ヲ一擊ニ打破スベキ論ヲ立ツベシ

第百八十五

恰好ノ事實或ハ格段ナル適例ヲ得バ之ヲ變ジテ一般ノ主義ノ如クニ演述スヘシ

第百八十六

常ニ己レカ主張セントスル議論ニ最好ノ先例ヲ求メ以テ之レヲ證明センヿヲ勉メヨ

第百八十七

最初ニ想像ノ說ヲ作爲シ後ニ許多ノ事實ヲ蒐集シテ以テ之ヲ證明スルヿ勿レ蓋シ事實アリテ始メテ想像ノ腦裡ニ發シ來ルモノナレバナリ

第百八十八

小細ノ事情ヲ冗長ニ述ブルハ概シテ不可ナリト雖モ亦毫モ之ヲ演ブル所ナキモ議論ニ味ナキノ恐アリ須ラク中庸ヲ撰フヘシ

第百八十九

敵論者自ラ證明セント欲シテ能ハザル論點ヲバ已

レ之ニ代テ其意ヲ忖度シ容易ニ之ヲ證明スルノ方法ヲ示ストキハ敵論者ヨリ尊敬ヲ受クルノ功能大ナリトス

第百九十

演説中時々聽衆ノ意外ニ出ヅル事柄ヲ述ブルハ其功能最モ大ナリトス

第百九十一

討論中對論者ノ主義終始變ズル所ナキヤ否ヤヲ注意セヨ蓋シ如何ナル論者ト雖モ初述ノ主義ヲ以テ倣頭徹頭論述スルモノハ甚ダ稀少ナレバナリ

第百九十二

自己ノ論中骨子ト認ムル重要ノ點ハ直接ニ又ハ間接ニ屢〻之ヲ聽衆ニ知ラシムルヲ決シテ怠ルヿ勿レ

第百九十三

敵論者ニシテ若シ我議論ヲ錯亂セシメンガ爲メニ嘲弄ノ語氣ヲ使用スルヿアラハ其嘲弄ト駁論トヲ區別スベシ斯クスルトキハ敵者ノ言述ヲシテ無勢力ノ議論タラシムヲ得ベキナリ

第百九十四

敵論者ノ論ヲシテ錯亂セシムルヲ得ザルトキハ論主ニ關係アルカ如クニシテ其實然ラザルモノヲ論中ニ加ヘ以テ己ニ陳辨セシ論主ヲ一變センヿヲ試

ミヨ其奏効蓋シ難キニ非ス

第百九十五

一辭ニシテ數義ヲ有スル語アリ今其語ヲ我論中ニ用ヒ得ヘカラザルヤ否ヲ考フベシ蓋シ敵論者ト雖モ亦斯ノ如キ詭策ヲ襲用スルヿナキニ非ザレハ注意シテ之ヲ發見セヨ

第百九十六

定義トハ一物ニ屬スル重要ナル性質ヲ説述スル者ノ謂ナリ故ニ凡ソ一物ノ定義ヲ下スニ當リテハ自己ノ論ニ適合スル性質ヲ指明スベシ其然ラザルモノハ黙シテ之ヲ説ク勿レ

第百九十七

聽衆ニシテ某議論ヲ称賛シタルトキハ其称賛シタル所以ヲ考思セヨ如此スルトキハ如何スレハ自説ニ称賛ヲ得ルヤヲ知ルヲ得ン

第百九十八

一事ヲ數條ニ分別シ而シテ其分別スル所ノ事情ヲ一々明白ニ陳述スルヲ得ハ假令其事理ノ重要ナラザルモ聽衆ヲシテ大ニ重要ナルカ如クニ思惟セシムルヲ得ン

第百九十九

敵論者ニ對シ信用ヲ得ント欲セハ「實ニ余ハ論者ト

感ヲ同フスルモノナレハ敢テ余ノ反對ヲ喋々スルモ更ラニ自ラ益スル所アルニアラスト雖モ如何セン今公衆ノ利益ヲ圖ラント欲セハ論者ノ說ニ於テ欠點アルヲ指斥セザルヲ得サルナリ」等ノ語ヲ用ヒテ論辨スベシ

第二百

最初ニ其主義ヲ明白ナラシメサル論者ノ議論ハ之ヲ攻擊スル丁最モ難シ

第二百一

一事ヲ說テ之ヲ維持セント欲セバ先ツ豫シメ敵手ノ異端ヲ察知シテ之ヲ辨拆シ而シテ後自論ヲ辨護セヨ

第二百二

某ノ行爲ヲ譴責セント欲セバ稍々議論ノ結尾ニ近ヅクヲ待ツテ其不善ノ行爲ヲ縱論セヨ是レ聽衆ヲ感動セシムルノ一法ナリ

第二百三

敵論者ノ駁論ヲ反駁スルニハ敵手ノ已レニ對シテ論ジタル意思ヲ推測セヨ

第二百四

クインチリヤン氏曰ク熱心ハ能辨ニ欠クヘカラザルモノナリト

第二百五

己レカ議論ヲ曖昧ニシ聽衆ヲシテ異ナル意義ニ解セシメ加之全ク反對ノ意義ニ解セシムルヿ敢テ難キニアラズ

第二百六

敵論ヲ攻擊シ或ハ自論ヲ辨護セントスルニハ最初ニ述ベタル說ニ一二語ヲ增加若クハ刪除セヨ是レ聽衆ノ思想ヲシテ錯亂セシムルノ一詭術ナリ

第二百七

敵手若シ威權ヲ有スル者ナルトキハ須ラク厭惡スベキ人物ナルガ如ク若シ又否ラザル者ナラハ輕蔑スベキ人物ナルカ如ク言ヒ顯ハスベシ

第二百八

議論ノ陳述ニ二種アリ曰ク衆人未發ノ說ヲ述ブルヿ曰ク既ニ他人ノ陳述シタル說ヲ擧ケテ恰モ自說ノ如ク再述スルヿ是ナリ故ニ若シ第一種ノ陳述ヲ爲スノ智力ナクンバ乃チ第二種ノ陳述ニ於テ深ク意ヲ用フベシ

第二百九

己レ若シ文學者タルトキハ論中ニ理學上ノ適例ヲ用ヒ若シ又理學者タルトキハ文學上ノ適例ヲ用フベシ右ハ己レノ賢明ト博識トヲ聽衆ニ示スノ方策

ナリトス

第二百十

沈着論者ト雖モ嘲弄若クハ罵詈ヲ用フル片ハ爲メニ發怒シテ激論セズンバアラズ此時ニ當ツテ能ク其激論ニ注意スルトキハ其最初ニ陳辨シタル說ニ撞着シ或ハ非理ノ點ナクンバ非ズ乃チ此等ノ隙ニ乘ジテ之ヲ痛擊セヨ

第二百十一

俚言ニ窮鼠却ツテ猫ヲ嚙ムト云ヘリ故ニ敵手既ニ自說ニ服從セハ飽マデ過度ニ攻擊スル勿レ

第二百十二

一論題ニ關シテ演說スルニ如何ナル音調ヲ用フルトキハ他ノ論者ニ超絕シテ妙ヘニ自說ヲ陳述シ得ベキヤヲ思考セヨ

第二百十三

議論ヲ述ブルニハ第一論點ハ明白ニ簡短ニ且巧妙ニ之ヲ陳述セヨ第二自說ヲシテ鞏固ナラシムベキ證據トナル事實ヲ明示セヨ第三議論ノ全體ヲ述ベ併セテ其決論ヲ陳セヨ而シテ其決論ニ於テハ自說ノ帮助トナルベキモノミヲ約說シ其他敵論者ノ駁擊ヲ招キ易シト認ムル諸點ハ黙シテ之ヲ陳述スル勿レ且ツ最后ニ臨ンデ一言ノ以テ聽衆ヲ感動

セシムヘキモノヲ吐露スベシ

第二百十四

議論ヲ爲スニ論理學的ノ体裁ニ倣フテ陳述スルヿ勿レ然レ𪜈思想中ニハ豫シメ其体裁ヲ結構シテ順序ヲ整列セヨ

第二百十五

議論ヲ分解シテ三段論題ニ組立ツルトキハ其何レノ部分ハ肯綮ニシテ其何レノ部分ハ蛇足ナルヤ或ハ孰レノ部分ニ誤謬ノ存スルヤヲ覺知スルヿヲ得ベシ

第二百十六

一事物ニ對シテ明白ナル定義ヲ下シ或ハ題目ヲ數條ニ區別シ專ラ論理學的ノ體裁ニ依テ議論ヲ組成スルノ必要ナル場合ナキニ非ズ察セザルベカラズ

第二百十七

自己ノ思想ヲ整フルニ當リ其互ニ關係ヲ有スルモノハ之レヲ一處ニ修收シ以テ能ク順序ヲ正フセヨ

第二百十八

討論ノ將ニ終ラントスルニ際シ敵論者ノ弱点ヲ駁擊スルハ大ナル利益アリ

第二百十九

飽マデ反對論ヲ駁スルハ得策ニアラズ其議論中ノ

幾今ヲ許シ其他ノ部今ヲ駁擊セヨ斯ノ如クスルトキハ敢テ敵論者ニ激怒ノ念ヲ發セシムルヿ無クシテ其論ヲ衰弱ナラシムルヲ得ベシ

第二百二十

若シ自說ヲ證明スルノ事實ナキトキハ自ラ其好事實ヲ構造シ究然眞正ノ事實ノ如クニ言述セヨ

第二百二十一

譬喩ハ勉テ淺近易ナルヲ良トス

第二百二十二

時宜ニ應シテ不分明ナルモノヲ分明ナルモノヽ如クニ演ヘ或ハ分明ナルモノヲ不分明ナルモノヽ如ク演ヘヨ

第二百二十三

或ル論題ニ關シテ一說ヲ構成センガ爲メニ諸昼ノ參看ヲ要スルヿアラバ先ツ其異說者ノ書ヲ讀ミテ然ル后同說者ノ書ニ及ブヘシ

第二百二十四

畫工ノ景色ヲ畫クヤ先ツ其思想中ニ大體ノ粗畫ヲ組成シ然ル後山水草木鳥獸岩石等ノ局所ヲ考按シテ相應ノ著色ヲ工夫シ以テ一タヒ其稿ヲ終リ更ニ再ビ其全体ニ校正ヲ加フト云フ議論ノ編成ニ至テモ亦此法ニ倣ヘ

第二百二十五

討論ノ際自己ノ用フル言語ト敵論者ノ用フル言語ト相異ナラザルヤ否ヤニ注意セヨ若シ言語同一ナルトキハ敵者果シテ自己ト同一ノ意義ニ之ヲ用フルヤ否ヤヲ注意セヨ

第二百二十六

若シ非改革論ヲ主張セント欲セバ「既ニ整齊確定セル我國政ヲ改メント欲スルハ實ニ不正ノ極ト謂フベシ」ト唱ヘ又是改革論ヲ主張セント欲セバ「改革ハ我國政或ハ憲法ノ基礎ヲシテ益々鞏固ナラシメ以テ我同胞タル邦人ノ幸福ヲ増進セシムルノ策ナリ」、等ノ語ヲ用ヒテ論スベシ

第二百二十七

現時ニ在テ其必要ナラザル乃、吾人ノ同盟セント欲スル人々ハ信用シガタキ乃、且ツ其人々ハ從來我國ニ對シ不平ノ念絶ヘザルノミナラズ、其人々ハ數十里外隔遠ノ地ニ在ルカ爲メ一朝緩急アリテ我ヨリ助ケヲ求ムルモ直チニ其求ニ應ジ難キ乃等ノ理由ヲ述ヘ以テ其非ナルヲ陳述セヨ

第二百二十八

是戰爭論ヲ主張スル法　今ヤ吾人ニ妨害ヲ加ヘタ

ル者ニ復讎スルノ時機至レリ、我カ同盟國ガ某國ヨリ不正ニ攻擊ヲ受ケタルヲ見テ保助セザルベカラズ、今ノ時ニ當ツテ戰端ヲ開クハ一ハ吾人ノ利益ノ爲メ一ハ吾人ノ名譽ノ爲メナリ、等ノ事ヲ述ベ且ツ人口ノ夥多、兵士ノ勇武國家富强ノ情況、敵國ノ微弱等凡テ開戰ニ利益アルベキノ理由ヲ述ベ尚ホ開戰セザレバ隨テ生ズヘキ弊害ヲモ併述セヨ

第二百二十九　今ヤ吾人ノ被害ハ極メテ非戰爭論ヲ主張スル法

些少ナリ、戰爭ハ何レノ時何レノ所ニ論ナク吾人ニ利益アルモノニ非ズ、戰爭ヨリ起コル所ノ弊害ハ實ニ枚擧スベカラズ等ノ語ヲ用ヒ併セテ凡テノ利益ハ我ニ在ラズシテ彼レニ存スルヿヲモ陳述セヨ

第二百三十　我レ已ニ勝利

我レニ幸ナル戰爭ヲ中止スルノ法

アリ今ヤ宜シク其戰爭ヲ中止スベシ、全勝ノ際ニ當テ平和ヲ講セズ不利ニ陷イルヲ顧ミズ飽マデ戰爭ヲ嗜ムハ智者ノ爲サヾル所ナリ、勝敗ハ天ニ在リ不日如何ナル變ヲ生ズルモ計ルベカラズ故ニ今此機ニ乘ジテ中止ノ事ヲ謀ラズンバアルベカラズ等ノ事ヲ擧ゲテ論述セヨ

第二百三十一

我レニ不幸ナル戰爭ヲ中止スル法　吾人カ既ニ受クル所ノ弊害及ヒ將サニ受ケントスル所ノ弊害ヲ筭計シテ以テ之レヲ陳セヨ即チ他日巨大ノ利ヲ失フノ危險ヲ行ハンヨリハ寧ロ今細利ヲ失フテ止ムヲ得策トス敵國ノ要求ハ決シテ過當ニ非ズ、若シ今ニシテ中止セズ戰爭久シキニ彌ラハ我同盟國中敵ニ應援スル者ナキニアラザルベシ等ノ事ヲ陳ヘ吾人カ既ニ受クル所ノ弊害及ヒ將サニ受ケントスル所ノ弊害ヲモ論中ニ包含シテ之レヲ述ヘヨ

國會舌戰必勝終

明治十九年五月廿六日板權免許
明治十九年六月出版

譯述人　高知縣士族　千頭清臣　東京牛込若宮町三拾七番地

出版人　東京府平民　井上蘇吉　東京神田裏神保町壹番地

賣捌所

東京神田裏神保町　澤屋蘇吉
同　日本橋通三丁目　丸屋書店
同　銀座四丁目　博聞社
同　京橋南傳馬町　叢書閣
同　神田小川町　集成社
同　同表神保町　中西屋邦太
同　芝三島町　和泉屋市兵衛
同　日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛
大坂備後町四丁目　梅原龜七
京都河原町通二条下ル　大黒屋書舗